

風地蔵新聞

第121号
発行 編集
風地蔵 白石 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85
ヤフーブログ
毎日更新中
炎の女みほ日記
<http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230>

秋・冬の風物詩

大橋 美紀

風地蔵の九州名物「しろくま」は、夏のメニユー人気1と、前回の新聞に書きました。秋から冬、そして春には当店オリジナルの「ぜんざい」が人気1となり、今年10月に入っても、30度を超える夏日があり、皆さんもいつになつたら涼しくなり、秋が来るのだらうと思つていた方も多いことでしょう。やつと10月の半ばになると、ようやく秋らしくなつてきま

した。その頃から、お客さまも「ぜんざい」を頼まれる方がぐつと増えてきました。風地蔵の「ぜんざい」は、今は無き、京都の行列が出来る人気店の「ぜんざい」の噂を聞き、何か、風地蔵の名物をと考へていたオーナーは、即行動で、お店に行かれたそうです。作り方を教えて頂くわけではなく、食し、味を舌で盗んで来て、風地蔵に戻り、その味に手を加えて、風地蔵オリジナルの「ぜんざい」が誕生したそうです。それに、ぜんざいの中に入るお餅にもこだわ

りがあります。風地蔵は、大垣に居ながらにして九州を感じ、味わえるお店です。こちら岐阜では、のし餅で四角のお餅が定番ですが、九州は丸餅だそうで、うまいと言われる高山さんのもち米を使い、スタツフ全員で2、3カ月に1度、冬はもう少し早めに、もちつきをしています。つきたてのお餅は、熱いうちにすぐ手で丸めますが、冷めるとすぐ硬くなるので、時間との勝負です。つきたてのお餅を切る役になると、熱さも闘わなければいけません。1度に4

5臼つきます。手が真っ赤になります。が、お客様がおいしいと言つて下さるその言葉で、私達は、手作りにこだわりの1日ばかりでおもちつきをします。そのお餅がぜんざいの中に2個入つています。女性ももちろん、男性も1度食べたら、また足を運んでください。本當言うとは私ばかりではありません。ぜんざいが好きではありませんでしたが、風地蔵の「ぜんざい」は甘さも控えめで丁度よく、私をはじめておいしいと思つたぜんざいが、風地蔵のぜんざいでした。なるほど、このぜんざいだからこそ、来る注ぎされる方や、

男性一人で食べられる常連さんがこの季節になるといらしゃつて、その人数も年々、増えていくようです。中には家では禁止になつているらしい、甘い物を「ぜんざい」のほりが出たとたん、こつそり食べにくるのが生きがいの方もいます。これから秋から冬へと季節が変わりぐつと寒くなります。是非、タイムスリップしたようなどこか懐かしい居心地のいい癒される空間で、当店のこだわりのオリジナルぜんざいを食べにいらつしゃってください。きつと心も体もほつこりなることと思ひます。

あまてつすです

《山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向う三軒両隣りにちらちらする、ただの人である。カナダの天才ピアニスト、グレン・グールドは夏目漱石「草枕」を愛読していた事は余り知られていない。だが「聖書」の横にはいつもこの本が置かれてあつたと云う。漱石が前衛的な創作に挑戦した小説であり、まるで絵画を見るが如く、美し

さを与えてくれる小説でもあつた。山奥で知り合った女性「那美」に憧れを抱いた時、「絵になる」と云つた主人公の画工は、シエクスピア「ハムレット」のオフェリアを想像したのだから。去年の文学講座は森鷗外だったが、今年夏目漱石の文学講座を図書館で受ける事に。講師は去年と同じく岐阜大学教授・林氏。「夏目漱石の文明批評と自己探究」というテーマで二時間の講義。明治という時代に漱石の文学がどう確立していったか。その道程はいかに苦しいものだったかをこの講座で知る事ができた。また漱

石の本名「金之助」にまつわるエピソードは、その時代の風潮とも云うべき物だ。漱石が生まれたのは慶応三年（一八六七年）二月九日。この庚申の日に生まれた赤子は、大泥棒になると云う信仰があつた。そこで、名前に「金」を入れたらその様な人間にはならないだろうと厄除けの意味で「金之助」と名付けたと云う。また後の「漱石」の名は、中国の故事「枕石漱水」（流れるに漱ぎ、石に枕す）と云う詩から、俗世間から離れて、川の流れで口をすすいで、石を枕として眠る様な引退生活を送りたい。と云う意味で付

けたと謂われている。漱石は正岡子規とも交流があり、俳句も数多残している。《能もなき 教師とならん あら涼し》この句などは、明治三十二年四月に小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の後任として、第一高等学校の教授、帝国大学文学部教授として着任した時の不安感や苦悩を表現した漱石らしい句だと思つ。今回のもうひとつのテーマ「現代日本の開化」と「私の個人主義」を読む。本の裡から抜粋して林氏が朗読。漱石の文学論にとどまらず、日本の近代化や日本人として西洋に對峙する事の出来る自己本

位と云つた内容が本から窺える。（後からこの二冊の本を読むことになる）前期の三部作と云われる「三四郎」「それから」「門」、後期三部作「彼岸過迄」「行人」「こゝろ」そして未完に終わった「明暗」等といった小説は三角関係の作品ではあるが、生きて行くとはどういう事なのかを問いかけている。犬山・明治村には夏目漱石と森鷗外が住んでいた家があり、今年もう三回明治村を訪ねた。（ちなみに明治村の住民です）訪ねる度に必ず此処の縁側に腰を掛けて小休止をしている。

九州の空から

りおんがきのう運転免許を取りました。高山から、太宰府へ帰つて、高3の春休みの間で、運転免許をとりに行きました。就職の日まで間に合うか？ ぎりぎりの期間でした。公安指定ではない、近くの45万の自校に比べると、半額の安い自動車学校に22万で行つ

たのですが、最後の実技は、警察官を隣に乗せてやる試験で、うわさ通りなかなか通してはくれません。それでも数回受けるのと、バツチリになり、合格するのですが、りおんの担当の試験官のグループだけは、合格までに数倍時間が掛かりました。それで、翌日が入社日の日に、福岡の免許試験場へ学課を受けに行きました。3点足らず不合格。あとは、自分で稼いで行つてくれ」と突き放します。半年

が過ぎて、「あれって、有効期限、半年じゃないの？」と、まわりもざわつき始めたし、期限は1年とは分かってはいたけど、りおんのことだからのんびりされても困るしと、そろそろ、尻を叩く事に。「うち、もう免許とらんではないし。」と言いつつ始末。あらら、しまった。そう言いそうな雰囲気だったので、ピンゴだ！ それでも、なんやかなりやいいながら、試験日を決めた。「また、何回か落ちたつて、

すべて給料から払うんやよ！」と、勉強しとらんや、2回は落ちるな。」といいながら受けに行った。「うかつたし。」とメール。「ははは、その手にはらんし。」ま、落ち込まず、がんばり！」と返したが、どうやら本当らしい。あわてて保険屋さんに電話して、今日から自動車保険加入してもらおう。乗るうとはしないけど、あらたな世界が広がりますね。」

男性一人で食べられる常連さんがこの季節になるといらしゃつて、その人数も年々、増えていくようです。中には家では禁止になつているらしい、甘い物を「ぜんざい」のほりが出たとたん、こつそり食べにくのが生きがいの方もいます。これから秋から冬へと季節が変わりぐつと寒くなります。是非、タイムスリップしたようなどこか懐かしい居心地のいい癒される空間で、当店のこだわりのオリジナルぜんざいを食べにいらつしゃってください。きつと心も体もほつこりなることと思ひます。

ちよっと立ち話し

大垣の大雨のマジかという記事はおもしろくよませてもらったが、被害にあわれた方は気の毒で失礼を承知で述べさせていただきます。見世物小屋は確かに大垣の八幡神社で私もみました。昭和の20、30年代でしょうか。でも映画では残酷なシーンは見せにくせに生のときは見せるなどはいかかなものでしょうか。大人げないと思います。自分が気分悪いから他人もそうだと決めつけるのはよくないと思います。(細野さん)

なつかしくオーナーの見世物小屋を読みました。ブログでも見せて頂きまして、大垣祭りで八幡神社に毎年やって来てました。子供心に魚女に顔が2つある女、まあ、すごく興味をそそられ一度だけ親におねだりをして入りました。すごく期待をして入って、ガツカリした記憶があります。いんちき〜と思ったんです。半分半分しか姿を見せない見世物小屋でした。今でもやつてるんですね。(大橋)

変でしたね。(ご近所の方) 妻が隅まで新聞読んでいるよ。よく書かれるねといつも感心してるよ。(ご近所のご主人) 新しい出会い、見覚えの顔を見てホツとする。どちらも大切ですよ。見世物小屋は見た事がないです。どちらかというところから気づかれないと言っていましたね。アメリカンってそこからきてるんですね。「ほーっ」という感じですよ。少し前

で暑かったのに今は日中でも風が強く吹くと寒いです。一気に秋ではなく冬が来た感じですよ。(原) 見世物小屋ありません。私は新大橋の所で、夏に兵隊だつたり、戦争だけが物乞いをしてるのを見て、子供心にシヨックを受けたのを思い出しました。アメリカンはいろんな説があるようですね。本当に下を向いてスマホをさわっている方が自転車運転しながらもやるとの触れ合い大切ですね。(鎌澤)

来られたことはあるけど、プライベートで来られるとは嬉しい限りです。今回は、あつきーなさんがご自身でステージの上で「風地蔵にいつてきたよ」と公開されたので、記事にも出来て喜ばしい事です。ぜひ、お忍びの芸能人の方の場合は、「他言無用」の精神で参りますので、個人的には、九州出身の福山雅治さん、ふみや、あたしの結婚のもとになった映画「悪人」の妻木木、フアン、稲葉さん、浜ちゃん(西田敏行)あたりは是非力モンです。内緒にしときますから。(みほ)

風地蔵にアッキーナ

原 由里子

毎月第一日曜日は、大垣の駅前通りで、町の活性化を目指し、ハツラツ市が行われます。10月6日の日曜日、雨に降られるまでもなく曇り空でしたが、たくさんの人たちが集まって楽しんでいました。前の日から、風地蔵の1本東の水門川が終着点のたらい舟も始まり、私達も乗船場へ、交代でチラシを配りに行ったりしました。

日曜日の午前中のことです。お店のカフェにはまだひと組のお客さんも来てません。11時半ごろにやっと、その日初めてのお客様です。男性一人と、女性二人。店長がお迎えをして、私はうしろの方で「いらっしゃいませ」と挨拶をしたとき、男性の方だけ見えました。とてもオシャレでかなりカッコイイ方でした。店長が席へ案内し、戻って来ました。「イベントで来たみたいですよ。」と短い時間で聞いたお客様の情報でした。

それを聞いた私は、男性が

タレントさんで、大垣市から頼まれたゲストなんだと思いました。男性にオーラを感じていたので。お水とおしぼりを持っていった時、初めて女性の2人もみました。一人は50歳ぐらいの可愛らしい声の方です。服装もオシャレでキレイにされています。この男性の方が御主人なのかなと思ったので、「素敵なお人と出会ったんだな」と本気で思っていました。若い方の方の女性は、ご夫婦の娘さんなのだろうか。髪は黒くて長く、大きなマスクでまったくお顔は見えませんでした。何気なく手元を見ると、ピツクリです。「なんのお仕事だろう」と思うくらい、ものすごい華やかなネイルが施されていました。黒と白にラインストーンが使用され、お洒落なOLさんではなさそうなネイルです。時計も目に入り、かなり高価な時計のようでした。またたびつきり。これは、お金持ちの娘さんなんだ。仕事なんかしなくてもいい娘さんなんだ。と勝手に解釈をします。お父さんと思う方の身なりもお洒落だし、いいものを見につけられているので、私

の中ではそれで納得です。男性は、ぜんざいとアイスコーヒー。女性お二人はきなこともち。若い方は、プラス、カルピスを頼まりました。全員席から立って、店内を見て回る様子もありません。帰りに男性の方がレジに立たれた時、「TVとか舞台と力二出たらつしゃいませんか？」と聞いてみました。「いや、出てないですよ。初めて言われました。ありがとございません。」と、本当の事しか言いませんので、「思っていた疑問を投げかけていました。女性の方にも「きなこもちどうでしたか？」と、何気なく聞いてみました。お二人とも、「すごいいいしかったです。」と言われ、ニコツと笑われました。若い女性の方は大きなマスクでしたが、目元だけ見えました。「あれ？どこかで見えた事がある」笑った目元が印象的でした。送りだし、じーっと見ていると、風地蔵の前に黒塗りの窓はスモークが張られたワゴンに、スーツを着た年配の運転手さんがいました。そこで初めて気がつきました。「あー、アッキーナだ！」

今日、ハツラツ市のゲストにトークショーでタレントの南明奈さんが来ることになっていました。やっと気づきました。ひとりです。すっごい！と感激していると、店長が帰って来ました。店長にそのことを告げると、「わー早くわかっていたらサインもらいたのに」と二人で盛り上がりました。昼から出勤してきた大橋さんも「なんで電話してくれなかったんですか！。もーっ！」と、何回か両手を振りかざしていました。賑わう町にチラシを配りに行った時、ちょうどアッキーナのトークショーで、司会者の方が「どこか、大垣は行かれましたか？」と質問をしたそうです。「車でまわったくらいです。でもさっき、何ていったかな。かざ・かざ・風地蔵ってお店に行ってきたんです。きなこもちとカルピスを食べたんですけど、すごいいいしかったです。」と話してくれたそうです。宣伝をして頂けました。後日、この場で聞いていたお客様が、「きなこもち」を食べ

に来られた方もいました。運営している、市役所の方も風地蔵にアッキーナが行ったことをあとから知ったそうです。大垣に予定より早くに着いたらしく、準備した控え室にも、お弁当や飲み物を用意していたそうですが、ちょうど、風地蔵の前を通った時に、気になったそうです。時間もたつぷりあったので、市の関係者の方にはどこに行くとかわず、「ちよっと出掛けてきます。」とだけ言って外に出られたそうです。ちなみに男性の方がマネージャーさんで、女性の方がアメイクさんのようでした。大橋さんに前、「隠れ家みたいな雰囲気あるお店だから、芸能人とか来ないかな。」と何気に話していたことが現実になりました。もし、隠れ家にごそり来られて、風地蔵新聞にこうして書きはしませんか、アッキーナさんは公開していただいたので、堂々とかけました。また、噂をしよう。言霊ってあるんだなと思えました。願いは言葉にした方が良くと改めて思いました。おわり

